KUFC

神奈川大学フロンティアクラブ会報
発行日　2002年３月23日
編集・発行　神奈川大学フロンティアクラブ広報委員会
事務局　神奈川大学内
〒221-8686　横浜市神奈川区六角橋3-27-1
TEL.045-481-5661(代)
FAX.045-491-7915
第７号

平成一四年度のKUFC総会

開催活動内容、組織の見直しを提案

平成一四年度の神奈川大学フロンティアクラブ（KUFC）総会が、二月二日（土）午後、本学の新一号館八階会議室で開催された。総会に先立って、鈴木芳徳経済学部教授（神奈川大学常務理事）による「日本経済と金融・証券―ペイ・オフについて」の講演会が行われた。講演は、ペイ・オフ解禁を目前に控えた日本経済、金融、証券などの極めて厳しい現状と見通しについて分かり易く解説し、大好評だった。（講演要旨は三面に掲載）。

総会は、神尾秀雄KUFC代表の挨拶、来賓として出席した神奈川大学大野泰理事長、山火正則学長の挨拶のあと議事に入り、平成一三年度事業報告、決算、平成一四年度事業計画、予算などについて、審議、承認された。

冒頭の挨拶で、神尾代表は、村橋・フロンティア奨学金や、産官学の交流、フロンティアサロンの開催など、主な活動について報告した。それに続いて、神尾代表は、「いま大学も少子化の時代を迎え、難しい問題を抱えています。フロンティアクラブの母体となる世話人会、三一七名減と、他大学を含め厳しい状況のなかで、本学においてはほぼ横ばいで健闘していることの報告があった。

このあと、神尾代表を議長に選出して、議事に入った。第一議案は、平成一三年度の事業報告、決算報告で、事務局から説明があり承認された。続いて、平成一四年度事業計画については、広報活動、組織活動、募金協力活動、就職支援活動、産官学共同活動の各委員長、委員から事業計画の説明が行われた。

事業計画のなかで、広報委員会からは、会報の年一回の発行、フロンティアクラブのホームページの立ち上げ、そこでフロンティアサロンの広報を掲載するなどの事業計画が説明された。組織委員会からは、会員拡大を目標に新規加入者を確保するための勧誘活動の展開、募金協力委員会は、村橋・フロンティア奨学金などの学生支援の奨学金の寄附など今年度の事業計画が示された。

就職支援委員会からは、学生の就職活動を多面的に支援するために小委員会をつくって検討すること、インターンシップの受入れ、就職アドバイザー制度の導入など、事業計画の説明があった。産官学協同委員会は、異業種交流の推進、産官学の情報提供、現場見学会などを主な活動とし、フロンティアサロンの地域社会への働きかけ、講演の記録化などを行っていきたいとの事業計画が提案された。以上の事業計画に合わせて、平成一四年度の予算が承認された。

総会の最後の議案である役員（世話人・各委員）については、大学や社会の情勢の変化に対応して、副代表の設置、委員会の統廃合など、フロンティアクラブの活動内容、組織の見直しを図っていくことが提案され、承認された。

総会終了後は、新一号館八階のラウンジで、和やかに懇談の場がもたれた。今後、総会で提案されたように、内容、組織の見直しのもとに、新たな活動展開が期待される。

各委員会や、事業計画なども社会の変化に合わせて見直す時期にきています。それを改めて提案していきたい」と、述べた。

来賓の大野理事長は、本学の平成一四年度の予算方針や特徴、国の教育行政や厳しさを増す経営環境と財政、地方からの学生募集と寮や奨学金などの学生支援活動について、法人の基本的な方針を説明し、「他大学との競争に勝っていくために、一同頑張っていますので、宜しくお願いしたい」と挨拶を締めくくった。また、山火学長は「本学の社会的評価は、卒業生の活躍が大きく寄与している。それは教育重視を貫いた創立者の姿勢を受け継いでいるためであり、今後とも教育重視、学生の立場に立った教育を心掛けて難局に当たっていきたい」と挨拶をした。

大学当局からは、平成一四年度の入試志願状況について、第一部は昨年比一・三五％、

会員だより

少子・高齢社会と高齢者の役割

西森　秀明（昭34法、平13法修）

我儘を言って定年の三年前（平成一一年三月）に職を辞し、母校の大学院に入り「わが国の高齢者福祉と自治体の取組状況」をテーマとして博士前期課程を修め、現在横浜国立大学大学院研究生の身分で「高齢者福祉と高齢者心理」をテーマとして加齢に伴う心理的な移ろい（老年心理学）や老年期における社会関係（社会老年学）を追い究めている。

さて、国立社会保障・人口問題研究所は去る一月三〇日、将来推計人口を来る二〇五〇年には六五歳以上の高齢者が総人口の三五・七％になると発表した。このことは、出生率（女性が生涯に出産する一人当たり平均の子供数）が一・三九に低下し少子化が加速することにあり、また平均寿命は男性八〇・九五歳、女性八九・二二歳となり高齢化も加速するとしている。このように現役世代が減少することは、公的年金やわが国の経済活動に大きく影響をきたすとしている。

国や自治体においては、これらの高齢社会に対応するため「今後五か年の高齢者保健福祉施策の方向（ゴールドプラン21）」の策定及び「介護保険制度」等を実施し高齢者福祉施策の充実がはかられている。

しかし高齢者の八〇％は健康であり、若干の階層差があるとはいえ持ち家率、資産額等概して経済的にも豊かで自立して生活しているとされていることからすれば、従来の受け身としての高齢者ではなく積極的に社会、特に地域社会における各種の資源（労働、教育、福祉、行政、政治等）としての役割を果たすことが期待される。

同時にまた、高齢社会は高齢者が多い社会を意味しているが、高齢者が多数をしめ社会や組織の指導層にとどまり続けることにより、前途のある後進の芽を阻むことがあってはならない。

最後に母校の益々の発展と会員諸兄のご健勝を祈念申し上げます。

（元神奈川大学審議役・藤沢市高齢者施策検討委員会委員）

村橋・フロンティア奨学金授与式開催

平成一三年度

平成一三年度、村橋・フロンティア奨学金授与式が、昨年一〇月三〇日（火）横浜キャンパス一号館三〇八会議室で開催された。

今年度も、授与対象学生は、全学部から計一〇名であった。大野泰理事長の挨拶、創設者で名誉博士の村橋三好氏、フロンティアクラブ代表の神尾秀雄氏の来賓の挨拶のあと、奨学金（四〇万）採用証、徽章授与が行われ、山火正則学長から選考についての総評があった。これを受けて、奨学生を代表し、法学部二年中山雅由さんから、次のような謝辞が述べられた。

〈謝辞〉

私にとって神奈川大学で勉強する理由は、将来の目標であるジャーナリストになるための幅広い知識と教養を得るためです。

最近の社会に流れる情報は、多くの人々を不安にさせるものがほとんどであり、偏ったものが多いと思います。私はこういう時にこそ人々が希望を見出せるようなニュースを探し、伝えられ、また多面的に物事を考えられるジャーナリストを目指しています。

私は現在このように自分の夢を叶えるために神奈川大学で勉強していますが、今私がここにいるのは、私自身の努力だけでなく多くの人の尽力によるものであります。

母子家庭で、三人の子供を育ててくれている母をはじめ、家族や恩師、多くの友人・知人など数え上げればきりがなく、感謝の言葉もありません。

大学での生活は、我々学生にとって可能性を開花させる大きな機会であるとともに非常に大きな転換期になる時間でもあります。私は大変名誉なことに、昨年に続き村橋・フロンティア奨学金奨学生に採用していただき学生生活を送っていますが、金銭的な負担が大きいことは、経済的に裕福となった現在の日本でも当てはまることであり、さらに不景気の今に至っては多くの学生とその家族にとっては多大な負担であると思います。

このような中で、奨学金、特に村橋・フロンティア奨学金をはじめとする給付奨学金の意義とその果たす役割は非常に大きなものとなってくると思います。

これからの将来、この村橋フロンティア奨学金が数多くの勉学意欲のある学生にとって希望となり、そして奨学生が自分自身の能力を開花させ社会の中で活躍することができることを嬉しく思います。

〔謝辞から抜粋〕

（奨学生代表　法学部法律学科二年　中山　雅由）

◆編集後記◆

▽春の気配が感じられるなか、ほぼ五年間にわたって進められてきた横浜キャンパス再開発事業が完成を迎えた。二月末、キャンパス内に林立していた工事の被いが外れると、これから地域住民との交流の場となる公開空地、池に〈永遠〉をテーマとしたモニュメントのある新二号館など、まったく新しいキャンパス風景が現出した。それは二一世紀という大きな時代と社会の変わり目と同様に、「二一世紀の神奈川大学」を感じさせるものであった。

▽今回、フロンティアクラブの総会に、私は取材のためにはじめて出席した。代表はじめ、各委員、それぞれの世界で活躍する会員の発言や、その場の雰囲気から改めて本学は多くの人たちに支えられていることに思いを新たにした。また昨年、ベンチャーの経営コンサルタント会社の代表をしている若い卒業生と、何回か会う機会を得た。彼は、卒業生のネットワークをつくり、それを各大学をつなぐ世界規模のネットワークへとつなげていきたいという構想を語った。急速にグロバリゼーションの進む世界と時代のなかで、ある一時期を共通の場で学ぶ体験をもった卒業生が、年齢と立場を超えて関わるネットワークの創出、それは大学そのものの活性化へとつながっていくであろう。新キャンパスは、もうすぐ桜の季節と新入生を迎える。

フロンティア・サロンの活動

好評な教授陣の講演　産学の交流活動活発化

KUFCの活動母体である産官学協同委員会主催の『産学フロンティアサロン』が本格的に始動した。このサロンは、神奈川大学が持つ知的資産を広く卒業生に活用してもらう目的で開設した。毎回、テーマを選んで、神奈川大学の会議室で、専門の教授に講演してもらった後、食事をしながら教授に質問したり、気楽に意見を交換する仕組みになっている。

最初の『産学フロンティアサロン』は、昨年三月一四日に一六号館第二会議室で開いた。講師は工学部応用化学科の山村博教授、テーマは、結晶格子欠陥の講演。一見、難解そうなテーマだったが、山村教授は、無機結晶に種々の力法で格子欠陥を導入することによって新しい機能が出現する欠陥と結晶構造の関わりについて解説するとともに、格子欠陥の導入によって出現する機能のうちの代表的な例として『イオン電動セラミックスとその応用』について、分かりやすく話した。

以来、今年一月までの一年間に計六回開催した。各回の講師とテーマは、二回目が理学部化学科の大石不二夫教授で『産官学共同研究、プラスチック・ゴムの実施例』。三回目は工学部電気電子情報工学科の新中新二教授による『ここまで来た電気自動車開発』。四回目は経済学部・中田信哉教授の『IT革命と物流』。五回目は工学部応用化学科・佐藤祐一教授の『高密度エネルギー蓄積材料と機能性めっき技術の開発』。六回目は工学部科学教室・田嶋和夫教授の『両親媒性分子の規則的構造が創成する最近の分子テクノロジー』。各回とも参加者から熱心な質問が出され、好評だった。

今後の予定は、第七回を三月二〇日(金)午後六時半から新一号館三階三〇一号室で開催。講師は経済学部の佐藤孝治助教授で、テーマは『情報通信革命と雇用対策』。第八回は五月二二日(水)午後六時半から三〇一会議室で、工学部の上野俊夫教授を招いて『サービス業と経営工学について』の講演を予定している。第九回は七月二四日を予定しているが、講師やテーマは未定。

これまでに開催したサロンの参加者は、主にKUFC会員と学内関係者だったが、サロンをさらに有効に活用するため近隣住民を含めた一般の方々にも参加を呼び掛ける方策を検討している。KUFC会員の皆さんも知人、友人を誘っての参加をお願いする。

◆就職支援講演会開催

「企業は学生に何を求めているか」

フロンティアクラブ就職支援委員会は就職支援の一環として、神奈川大学就職部から就職講座の要請を受け、二〇〇一年一〇月二六日(金)一六時二〇分から就職支援委員会委員長でネッツトヨタ神奈川代表取締役社長の新井三夫氏が『神大OB「代表取締役社長」から後輩へのメッセージ「企業は学生に何を求めているか」』というテーマで約九〇分の講演を行った。

講座当日は、約一五〇名の学生が出席し、「平和な日本、飽食な現代を生きている日本人の将来にとって大きな落とし穴があるかもしれない。これからの学生には、その落とし穴に落ちないよう仕事、職に就く事を真剣に考えていただきたい」、また「これから大切なこと、企業が必要としている人物像は自分に自信を持っている人である」などと話され、学生も真剣に聞き入った。講演終了後、学生からは、非常によく理解できたと好評であった。

今後もフロンティアクラブ就職支援委員会は、本学学生の就職支援を就職部の要請を受けて行っていく予定である。

▶学生を前に講演する新井三夫氏

講演記録

日本経済と金融・証券
ペイ・オフ目前、問われる当局の危機管理能力

経済学部教授　鈴木芳徳

いま、わが国経済は、三つの難関を目前にしている。(一)三月期決算、(二)四月一日のペイオフ解禁、(三)五～六月の決算数字の公表、である。これらを目前にして、アメリカは日本の当局の危機管理能力に不信の念を抱いている。そして、それよりも重い意味をもっているのは、マーケットが同じくこの点に関して不信を抱いている、という点である。

では、具体的に、日本経済はどのような困難を抱えているか。困難の構造は三重構造になっている。第一は、問題企業の存在である。これは多額の有利子負債を抱える不動産、流通、建設など、ある一定範囲の業種が特定される。第二に、これらと表裏の関係で、金融業界における大問題がある。周知の不良債権問題であり、同時に他面では多くの銀行が株式と国債を保有していることからくる問題がこれに加わる。後者は銀行が保有証券のプライスリスクに晒されていることを意味する。第三に、国債の問題がある。もし国債の市場価格が下落するようなことが起こると、それは長期金利の上昇を招くから、そのことが株価の下落を引き起こし、また景気の足を引っ張ることになる。この国債価格イコール長期金利の問題は、いま日本経済が抱える最大のリスクである。

これらの二重構造のどこにどのような形で火が付くか、どのような順番で問題が展開されるかは、分からない。しかし、こうした三重の構造をもつがゆえに、スパイラルに悪循環が生じることもありえよう。

それでは危機はどのような形で起こってくるだろうか。およそ四通りの場合がありえよう。第一は、問題企業の倒産が管理不能のかたちで続発した場合である。これまでのところは、とにかく当局の管理下で制御された形での倒産であったが、それがそういかないことがありうる。第二は、インターバンク市場で梗塞が生じて、これが金融界に打撃を与える場合である。第三は、これが国際的な場で生じた場合で、いわゆるジャパン・プレミアムが生じてきた場合である。第四に、昔ながらの取り付けが生じた場合である。

こうした危機に対しては、「国策」として首尾一貫した対応が取られねばならない。これは政治の問題であるが、現今の事情を考えると、それが可能かどうか、このところのトリプル安(株価低落、円安、国債価格低落)は市場のこの点についての意見表明とみることができよう。

そして、本当のことをいえば、そうした危機を予見して、予め対応措置をとることが必要であろう。政策担当者に賢明さが求められるところである。

危機は、その頂点において、長期金利の急騰と資本の海外への逃避(キャピタル・フライト)という形を取るに相違ない。その兆しはすでに現れつつあるように思われる。

大学トピックス

「第四回神奈川大学全国高校生俳句大賞」優秀作品集『17音の青春』(NHK出版)、刊行

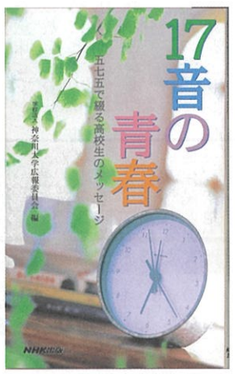
本学創立七〇周年を記念して創設された「全国高校生俳句大賞」は、今回で第四回目を数えた。応募総数は初めて一万通を超える一〇、八七〇通（応募高校一八八校）、応募句数は約三万句と、喜ばしい結果となった。

最終選考会が行われたのは、近代俳句の創設者・正岡子規の百回忌で盛り上がる愛媛県松山市。前回と同じく、宇多喜代子さん、大串章さん、金子兜太さん、川崎展宏さんら俳壇を代表する方々と、復本一郎教授（経営学部）が加わった計五名の選考委員が若さあふれる高校生たちの俳句と向き合い、次の作品が最優秀賞を受賞した。

【最優秀賞受賞作品】

ひきだしに海を映さぬサングラス
寂しいと言い私を蔦にせよ
黒板にDo your bestぼたん雪
　神野　紗希（愛媛県・松山東高等学校三年）
緑陰で孟浩然を暗誦す
暴走族の先頭止まる天の川
トイレットペーパー切れし良夜かな
　佐藤謙太郎（神奈川県・横浜高等学校二年）
母の弾くショパンは昏し桜桃忌
ぼろぼろのグローブ秋の玄関に
身の中の蛍の闇の無限大
　江渡　華子（青森県・三本木高等学校二年）
窓ガラスの落書き越しに積もる雪
引っ越しの車見送るしゃぼん玉
カーテンの白さの向う桜咲く
　吉村麻有未（東京都・香蘭女学校高等学校二年）
熱帯夜エレキギターの弦切れる
沖縄忌蛍光灯に蝿止まる
うりずんやミットが乾いた音をだす
　祖根　克弥（沖縄県・開邦高等学校一年）

さわやかでみずみずしい、学生らしさいっぱいの作品はもちろん、大人びた言葉づかいや表現・視点にハッと驚かされるものも。明らかな質の向上が感じられ、今後の作品にも期待が寄せられる。

三月にはその優秀作品集として『17音の青春』(二〇〇二年版)がNHK出版から刊行された。現代の若者たちの豊かな感受性を堪能していただける一冊。

※全国の書店でお求めいただけます。